

発寒ひかり  
保育園だより

2022年  
2月号

巻頭言

ある日の朝、Y君(7カ月)が泣いていると、トコトコと駆け寄り、頭を優しくなでていた同じファミリーのA君(1歳7か月)。そんなA君も4月の入園当初は泣くことが多く、ファミリーの大きい子にいつもお世話されていました。またある日、ホールでAちゃん(1歳3ヶ月)と私がボール遊びをしていると、ボールがコロコロ転がりました。「遠くに行っちゃったね」と私が呟くと、「はい」とボールを拾ってAちゃんに渡したYちゃん(3歳児)。Aちゃんがニコツと笑うとYちゃんも笑顔になりました。当園では、こんな心温まるかわり溢れています。

異年齢での生活は、大きい子にとっても居心地の良い時間と なっています。Rちゃん(5歳児)は、クリスマスお祝い会の練習の時期に、緊張や不安から気持ちが悪くなり不安定に……。そんな中、クラス活動で友だちとのすれ違いでケンカになり、クラスからファミリーの部屋へ行ってしまった。ファミリーの小さい子が、帰ってきたRちゃんを笑顔で見つめると、Rちゃんの表情が和らぎ、友だちの所へ話をしに戻ることができました。また、その時期ずっと、ファミリー担任は話を聞いたり、甘えを受け止めたりすることで、Rちゃんは安心し、自信を持ってクラスでの練習に取り組むことができたのです。

生活の基盤はファミリーです。甘えてくる小さい子、憧れの大きい子、大きな心で受け止める担任。子どもたちは、安心して居場所があるからこそ、失敗を怖がらず、様々なことに挑戦し「自己発揮」をしています。家庭はもちろん、色々な人に愛されて生活する中で、自分自身を大切にし、日々成長していく子どもたちを皆さんと見守り続けたいと思います。

副主任保育士 笛木 菜未